

# 現場から学ぶ茨城学 ～畑で広げる地域の「わ」～

## 地域交流

代表者：人文学部社会科学科 1年 木村 愛実

### 連携先

- ・NPO法人雇用人材協会／あしたの学校
- ・水戸農業協同組合
- ・株式会社青春畑きくち農園

### 顧問教員

清水恵美子（社会連携センター・准教授）

### 参加者

- ・木村 愛実（人文学部社会科学科 1年）
- ・小松崎流緋（人文学部社会科学科 1年）
- ・加藤 駿（人文学部社会科学科 1年）
- ・澤田 桃子（人文学部社会科学科 1年）
- ・江口 紗姫（人文学部人文コミュニケーション学科 1年）
- ・福田 剛大（人文学部人文コミュニケーション学科 1年）
- ・渋谷 直樹（教育学部学校教育教員養成課程 2年）

### プロジェクトの概要

#### ●プロジェクトの背景

本プロジェクトは、茨城学で学んだ「農業県・茨城」が周知されていないという現状を打破するため、「食」を切り口に地域と関わる活動を始めた「食プロ」（昨年度最優秀プロジェクト『現場から学ぶ茨城学～「食」で開こう地域のトピラ～』の略称）の、後継・発展的プロジェクトとして、茨城学で食プロの成果発表を聞き感銘を受けた1年生が集まって発足した。我々は実際に農業を行うこ

とで、より現場に近いところから地域と繋がっていき、「農業県・茨城」を知りたいと考えた。

#### ●プロジェクトの目的と内容

農プロ（本プロジェクトの略称）「農業を通して地域とつながる・地域をつなげる」をコンセプトに、「生命を育てる感動・達成感を知りたい」という思いのもと、ひとつの畑からコミュニティを創り、「ふるさと」を考えるきっかけを作ることを目的とした。

本プロジェクトは三年間の活動を計画しており、今年度は茨城県で問題となっている耕作放棄地の再生を試みた。ここに学生や地域の人々が集うことで、地域の良さに気づき、共に「ふるさと」を考えることを狙った。

「マイナスから創り上げる」ということを重視し、耕作放棄地での作業をイベント化、学生や社会人を呼び、畑を作るところからスタートし、耕作放棄地を再生した畑を運営した。次年度以降は、現在の畑を維持しつつ、茨城大学内に畑を作ること、さらに、そこで作られたコミュニティで地域活性化の為のイベントを行うことを計画している。

#### ●連携の方法・内容

- ・NPO法人雇用人材協会／あしたの学校 佐川雄太様
- ↳ イベントを開催するにあたって、運営面でのサポートをいただいた。また、北関東三県団交流会をご紹介いただき、他団体との

交流の場、活動報告の場をご提供いただいた。

- ・水戸農業協同組合 菌部さとみ様
    - ↳耕作放棄地を探し、地主様を探し、地主様と交渉・契約をするまで手厚いサポートをいただいた。
  - ・株式会社青春畑きくち農園 菊地章夫様
    - ↳農業や畑の運営に関して知識の乏しい我々のために様々なサポートをいただいた。
- また、イベントにも多く出席していただいた。

### ●活動日程

本プロジェクトが今年度行った活動は、大きく分けて2本の柱に分かれる。

### ■耕作放棄地での活動

連携先であるJA水戸様に、耕作放棄地探し、地主様との交渉、契約までご協力いただき、2年間の契約で水戸市飯富町に耕作放棄地をお借りした。

計4回のイベントを実施し、茨城大学生を中心に他大学生や社会人の方にもお越しいただいた。茨城大学生も学年や学部は様々で、「普段話さない人とも話すことができた」、「友人が増えた」という声もあった。また、第一回のイベント後やイバラキカクの時間に農プロの将来について話し合い、メンバーでない学生からの意見も活動の中に取り入れようとした。耕作放棄地再生ということで作物の成長が危ぶまれたが、普段の畑の維持・管理は、メンバーが朝や放課後を使って行い、無農薬で野菜を育て上げた。

### ◎定例活動

毎週火曜日 8:30~10:00

畑にて朝活

毎週木曜日 昼休み

学生のみで会議

※メンバー各自、担当野菜を見守るため、朝

や放課後に活動することもある。

### ◎イベント

#### ① 第一弾「雑草討伐」

2016年8月11日(木) 動員14名

2メートルを超える雑草をほぼ人力だけで刈り払い、除根・除石を行い、畑の土台を作った。また、作業後は参加者全員で、「この畑で何をしたいか」「どんなものを植えたいか」といったことを話し合い、実際に種や苗の売り場を見に行った。



雑草討伐後 集合写真

#### ② 第二弾「種まきまき」

2016年9月11日(日) 動員11名

第一弾で土台を作ったところに堆肥を混ぜ込み、畝を作って畑の形にした第一弾の作業後に参加者で選んだ野菜5種類（ほうれん草、そら豆、白菜、ベビーキャロット、玉ねぎ）を植えた。



種まきまき後 集合写真

③ 第三弾「ほうれん草の卒業式」  
「ほうれん草の嫁入り」

2016年11月6日(日) 動員7名

畑で育ったほうれん草とベビーキャロットの収穫を行った。また、種から育てていた玉ねぎが苗まで育ったため、広い場所に植替えを行った。作業後、飯富市民センターに移動し、収穫した野菜を使って「ほうれん草と鮭のクリーム煮」を作った。2班に分かれて調理し、食べ比べをした。



ほうれん草の嫁入り 調理風景

④ 第四弾「11月のハーベスト」

2016年11月6日(日) 予定

雨天により未実施。ほうれん草とベビーキャロットの収穫、および調理イベントの2回目を行う予定だった。

⑤ 第五弾「12月のハーヴェスト・収穫」

「12月のハーヴェスト・調理」

2016年12月3日(土) 動員23名

畑にて、大きく育った白菜、ほうれん草、ベビーキャロットの収穫を行った。ほうれん草とベビーキャロットは、お土産として持ち帰っていただいた。作業後、飯富市民センターに移動し、収穫した白菜を使って鍋を作った。4つの班に分かれ、4つの味(塩、味噌、キムチ、)を作り、食べ比べをしながら交流を行った。



12月のハーヴェスト・収穫後 集合写真



12月のハーヴェスト・調理後 集合写真

## ■ 対外連携

### ◎ 常磐大学との連携

常磐大学の松原哲哉准教授と6月初めからお話をさせていただき、担当なさるプロジェクト科目の成果発表の場である「2016年常磐大学ファーム秋蕎麦収穫祭」にお招きいただいた。ここでは、常磐大学生だけでなく、常磐大学との交換留学生の方々、地域の方々、当日会った茨城大学の他団体とも交流ができた。松原准教授からもお話を伺い、今後も連携して活動しようということで、現在常磐大学の学生と連絡を取り合っている。



お蕎麦収穫祭 会食風景

### ◎ 北関東三県団交流会への参加

連携先であるNPO法人雇用人材協会の佐川様より、「北関東三県団交流会」にお招きいただいた。これは、北関東三県で地域活動を行う団体が集まって、活動報告やディスカッションを行う場である。ここに、唯一の大学生団体として参加させていただき、他団体から活動に対し様々なアドバイスを受け、大学生の目線からの地域活動についてディスカッションをした。



北関東三県団交流会 活動発表

### ◎ 大学内

大学内では「日本一つながる学食プロジェクト」と合同会議を行った他、当大学の宮口右二教授よりご紹介いただいた、茨城大学農学部と県立医療大学とのインターカレッジサークル「楽農人」とも連携を図った。8月から連絡を取らせていただき、近く合同勉強会を行うという方針で話が進んでいる。「うら谷津再生プロジェクト」についてもお話を伺い、そちらの活動にも参加させていただこうと考えている。

## ■ 取材掲載



学内情報誌 Blooming



茨城新聞 2017年1月9日付 1面  
『「地域元気に」学生奮闘』(農プロの紹介)

この他、朝日新聞社の取材も受けさせていただいた。

## プロジェクトの成果報告

### ●プロジェクトの成果

半年の活動で様々な方と出会い、さらに新しい繋がりが生まれただけでなく、イベント参加者同士を繋げることもできた。

耕作放棄地を再生するという点で、「農業県・茨城」の抱える問題に対し、より近いところから考え、行動することができた。また、茨城学での告知や活動報告、地域活動発表会への参加などで、より多くの学生に耕作放棄地問題を身近な問題として知ってもらえたのではないかと思います。

地域のコミュニティをつくるという点では、茨城大学生だけでなく、他大生や社会人の方々に参加していただくことで、学校の中だけではない繋がりを生み出した。SNSツールを用いて参加者同士が対話できる環境を整え、

「一度イベントで会っただけ」で終わらせない関係を作っている。実際に、農プロのイベントに参加したことがきっかけで友人となり、一緒に地域活動やボランティア活動をするようになったという学生もいる。

農プロを知ったこと、また、農プロのイベントへの参加が、「農業県・茨城」の実態や農業について、より現場に近いところから知るきっかけとなったのではないかと考える。また、人と人との繋がりを感じる、生み出すきっかけにも少なからずなったのではないだろうか。

### ●今後の課題・展望

今年度は畑の運営に手いっぱいになってしまい、イベントの広報が遅れてしまった。地域のコミュニティをつくることを最終的な目的としながら、イベント参加者のおよそ58%が茨城大学生であった。もっと幅広い年代層に参加してもらいたいと考え、近隣の小学校（飯富小学校、渡里小学校）に出向き、活動紹介のチラシを配布していただいたが、イベント参加に繋げることはできなかった。また、地域の方々や連携先の方々への働きかけ、交流が少なかったのも改善の余地がある。今後は、より地域を巻き込んだ活動ができるよう、イベントの広報を早く広くできるよう、工夫する。また、今回、活動に対するご理解をいただいた小学校や、北関東三県団交流会で繋がりが生まれた団体、畑近くの住民の方々との連携を強化し、小学校や団体のイベントや運営にボランティアとして参加し、農プロのイベントにも参加してもらおうというような関係性を築きたいと考えている。また、今年度つながった大学内の団体や常磐大学との連携も強化し、一緒にイベントを企画していきたいと考えている。

畑の運営に関しては、今年度同様メンバーが管理していくが、いずれは近隣住民の方々

にもご協力いただけるようになれば理想的だと考える。

また、茨城大学生がより地域について考え、地域に飛び出すきっかけになるよう、今年度断念した「茨苑会館の裏に畑をつくる」という活動も形にしていきたいと考える。これにより、地域の人も大学内に足を踏み入れやすくなり、より開かれた、地域に根差した大学になれるのではないかと考える。

我々の活動が、地域に興味を持ち、茨城県に興味を持つ学生が増えるきっかけになれるよう、来年度以降は地域連携に力を入れていこうと考えている。

#### 【お世話になった方々】

- ・NPO法人雇用人材協会／あしたの学校  
佐川雄太様
- ・水戸農業協同組合 菌部さとみ様
- ・株式会社青春畑きくち農園 菊地章夫様
- ・小田木保様（地主様）
- ・常磐大学 松原哲哉准教授
- ・常磐大学 プロジェクト科目履修生の皆さん
- ・茨城大学農学部 宮口右二教授
- ・楽農人の皆さん
- ・飯富市民センター
- ・ファミリーマート飯富町南店
- ・飯富小学校
- ・渡里小学校
- ・秋本様
- ・藤田様
- ・イバラキカク
- ・イベントに参加して下さった皆さん